

「自主性」と「主体性」

卒業式後に取り組んできたあいさつ運動や整理整頓の取り組みの振り返りとして、まとめの集会在金曜日に開催されました。来年度につながる素晴らしい成果を収めた一、二年生たち。集会は級長たちが中心となり、緊張感と温かみのある素晴らしいものでした。

会の最後の意見交流の時に、一年のI・A君が挙手をして発表しました。その彼の発言を、私は見逃がしませんでした。彼は今回の取り組みで得られたものを、最初「自主性」と表現して、後から「主体性」という言葉に直しました。生徒の皆さんは気付きましたか。

彼が言い直す必要はなかったと、私は思います。今回の取り組みで得られた成果は素晴らしいものでしたが、得られたものは「自主性」です。「主体性」はもう一つレベルが高いものだと考えています。

雨が降り出しそうな雲行きのように、家族から「雨が降ってくるかもしれないから、洗濯物を取り込んでおいてね」と言われて進んで引き受けるのと、言われなくても、雲行きを見て自分で取り込もうと判断して実践するのでは、大きな違いがあります。この違いが「自主性」と「主体性」の境目です。

やるかやらないかの判断からスタートし、自分でどうやるべきか考え、自分の力で実践する。これが「主体性」だと私は考えています。家族に取り込むように言われた時点で、自分の判断ではありません。それでも実行すれば価値の高いことです。で、「自主性」という言葉でその行動は評価されます。やはり、「主体性」を身に付ける時には、自分の意思や判断というのが乗り越えるべき高いハードルになるでしょうね。

取り組み期間中はできても、それが終わると元に戻ってしまふのは、「自主性」で終わっているからです。やるかやらないかの判断が自分の中から生まれたものではなく、周りから与えられたものだからです。

したがって、集会の中でリーダーたちが語っていたように「取り組みが終わってからもそれができるかどうか」というところが本当に大切になってきます。学年や性別を超えたあいさつや、日常の整理整頓の真価はこれからわかると言えますね。

学習も同じです。テストに向けた取り組み期間中だけ一生懸命やっても、期待するような結果が得られるとは思えません。与えられた期間ですからね。そんな期間を与えられなくても、日々学習を「主体的」に取り組んでいけば、確実な力がつくことでしょう。

(三月二十二日 記)

